



柏原藩織田まつり（柏原地域）
10月12日



柏原藩陣屋跡では、第18代織田家当主織田信孝氏を迎え、織田まつりや織田家の城下町柏原について話し合いが行われました。

▼第18代織田家当主
織田信孝氏



天満宮（春日）での棚原相撲甚句。棚原相撲甚句には力士のほかに唄のみを披露する唄い手があります。今年は弓取り式・唄い手ともに新人がデビューしました。

▶緊張の面持ちの新人唄い手



棚原相撲甚句（春日地域）
10月11日



伝統を受け継ぐ

—丹波に根付く地域色豊かな祭り—

各地域で守り、受け継がれてきた祭り。古くは戦国時代から続くものもあり、歴史と文化を今に伝える伝統行事です。年に1度の祭りには親戚・近所のみんなが集まり、人々をつなぐ役割も果たしています。これからも受け継いでいきたい丹波の祭りを紹介します。（写真協力：堀裕彦さん／市民リポーター）

秋深まる丹波各地で伝統の祭りが行われています。市島地域では、一宮神社で竹田祭りを開催。6社の神輿の宮入は勇壮そのものです。柏原地域では、柏原藩陣屋跡周辺で柏原藩織田まつりを開催。武者行列が城下を巡りました。青垣地域では熊野神社で、はだか祭りを開催。健康・長寿のご利益がある御幣を奪い合いました。春日地域では、天満宮で棚原相撲甚句を開催。化粧まわしを着け、丹波が舞台の唄に合わせて土俵を回りました。

棚原相撲甚句で弓取り式の大役を務めた團野俊和さんは「結婚し、地元に戻ってきた同級生たちと和気あいあいとやっています。地域が少しでも盛り上げられればいいですね」と笑顔で答えてくれました。

どの祭りも、伝統を受け継ぎ、守る人々の心意気を感じられるものでした。



熊野神社（青垣）でははだか祭り。今年の祭りには、遠く横浜からの参加者もあり、約50人もの男衆が集まりました。

▶御幣を手に入れ、満足気な表情を浮かべるようす。



はだか祭り（青垣地域）
11月3日



一宮神社（市島）での竹田祭。昨年は災害で中止され、2年ぶりの開催となりました。神輿が砂煙を上げながら勢いよく宮入りすると、一層盛り上がりを見せていました。

▶勢ぞろいした6社の神輿



竹田祭（市島地域）
10月11日

